第１章

第１節について

木村陽一（2004）「ベイジアンネットワーク：入門からヒューマンモデリングへの応用まで」日本行動計量学会第７回春のセミナー
杉山将他（2014）『統計的学習の基礎』共立出版株式会社
関谷航（2018）「邦銀の海外向け与信の動向」今週の指標 No.1206 内閣府（2018 年８月）
内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2018）『日本経済 2017－2018』
日本銀行(2017)「企業のインフレ予想形成に関する新事実:PartⅡ―機械学習アプローチ―」日本銀行ワーキングペーパーシリーズ

第２節について

上島大和（2018）「我が国の『未活用労働』について」今週の指標 No.1207 内閣府（2018 年８月）
大石亜希子(2017)「1980 年代半ば以降の雇用共稼ぎの増加とその背景」『日本労働研究雑誌』No.689
大久保幸夫（2018）「高齢者を活かさない労働市場」リクルートワークス研究所『研究所員の鳥瞰虫瞰』Vol.3
内閣府（2018）『平成 30 年度　年次経済財政報告』
内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2018）『日本経済 2017－2018』
リクルートワークス研究所（2018）「人手不足を乗り越える」Works No.149

第３節について

内閣府（2018）『平成 30 年度　年次経済財政報告』
内閣府（2016）『平成 28 年度　年次経済財政報告』

第２章

第１節について

宇南山卓・米田泰隆（2018）「日本の「家計調査」と「国民経済計算(SNA)」における家計貯蓄率の乖離 ―1994 年から 2015 年における日本の家計貯蓄率低下要因―」財務省財務総合政策研究所『フィナンシャル・レビュー』 第 134 号
大石亜希子(2017)「1980 年代半ば以降の雇用共稼ぎの増加とその背景」『日本労働研究雑誌』No.689

近藤絢子（2017）「高齢者雇用の現状と政策課題」川口大司編『日本の労働市場』第５章 有斐閣

三浦弘・東将人（2017）「共働き世帯の増加の背景とその消費支出への影響」日銀レビュー 2017-J-14

OECD (2015), *In It Together: Why Less Inequality Benefits All*, OECD publishing

第２節について

宇南山卓・大野太郎(2017)「日本の世帯属性別貯蓄率の動向について」RIETI Discussion paper Series 17-J-035

大石亜希子(2017)「1980 年代半ば以降の雇用共稼ぎの増加とその背景」『日本労働研究雑誌』No.689

武田佳奈（2017）「家事支援サービスの現状」『日本労働研究雑誌』No.689

内閣府（2018）『平成 30 年度　年次経済財政白書』

内閣府（2017）『平成 29 年度　年次経済財政白書』

内閣府（2010）『平成 22 年度　年次経済財政白書』

中澤正彦・菊田和晃・米田泰隆（2018）「高齢者の貯蓄の実態―『全国消費実態調査』の個票による分析―」財務省財務総合政策研究所『フィナンシャル・レビュー』第 134 号

日本銀行（2016）『経済・物価情勢の展望』2016 年 10 月

原田曜平（2013）『さとり世代』角川書店

ホリオカ チャールズ ユウジ・新見陽子（2018）「日本の高齢者世帯の貯蓄行動に関する実証分析」Institute of Social and Economic Research Discussion Papers, 1018, 1-20.

堀雅博（2018）「我が国世帯の消費性向の動きについて」Economic & Social Research No.22

松下東子・林裕之（2018a）「生活者１万人アンケート（８回目）にみる日本人の価値観・消費行動の変化」第 272 回ＮＲＩメディアフォーラム

松下東子・林裕之（2018b）「ＮＲＩ「生活者年末ネット調査」からみる５年間の変化」第 261 回ＮＲＩメディアフォーラム

三浦弘・東将人（2017）「共働き世帯の増加の背景とその消費支出への影響」日銀レビュー 2017-J-14

宮木由貴子（2017）「消費者の意識からみるこれからの消費行動」Life Design Report Autumn 2017.10

吉川洋・山口廣秀・大嶋秀雄（2017）「低迷する消費」日興リサーチセンター

労務行政研究所（2008）「社宅・独身寮の最新動向」2008 年４月 15 日プレスリリース

Horioka, C. Y. (2010), "The (dis) saving behavior of the aged in Japan", *Japan and the World Economy,* 22(3), 151-158.

Iwaisako, T. and Okada, K. (2012), "Understanding the decline in Japan's saving rate in the new millennium", *Japan and the World Economy*, 24(3), 163-173.

Modigliani, F., and Brumberg, R. (1954), "Utility analysis and the consumption function: An interpretation of cross-section data", *Franco Modigliani*, 1, 388-436.

Murata, K. (2018), "Dissaving by the elderly in Japan: Empirical evidence from survey data", *ESRI Discussion Paper Series*, No.346

第３節について

宇南山卓・原亮太(2015)「日本における「裕福なその日暮らし」と消費刺激策」PRI Discussion Paper Series No.15A-3

江口允崇（2011）『動学的一般均衡モデルによる財政政策の分析』三菱経済研究所

北村行伸・宮崎毅（2013）『税制改革のミクロ実証分析―家計経済からみた所得税・消費税』岩波書店

小寺信也・藤田隼平・井上祐介・新田尭之（2018）「POS・テキストデータを用いた消費分析－機械学習を活用してー」 経済財政分析ディスカッション・ペーパー DP/18-1

小巻泰之(2017)「消費税における軽減税率の効果」ニッセイ基礎研究所『基礎研レポート』

髙田具視（2004）「食料品等に対する軽減税率の導入問題」国税庁『税務大学校論叢』論叢 46 号

高野哲彰・菊池紘平・井上里菜（2015）「欧州諸国に学ぶ駆け込み・反動の抑え方」日本経済研究センター『経済百葉箱』第 81 号

内閣府（2018）『平成 30 年度　年次経済財政白書』

内閣府（2015）『平成 27 年度　年次経済財政報告』

内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2015）『日本経済 2014－2015』

内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2011）『世界経済の潮流 2011 年 I』

蓮見亮（2014）「小国開放経済型 DSGE モデルによる税制変更のシミュレーション分析」JCER Discussion Paper No.142

廣瀬康生（2012）『DSGE モデルによるマクロ実証分析の方法』三菱経済研究所

藤田隼平（2017）「ＰＯＳデータを用いた経済分析の試み―小売価格と景気動向との関係性の検証―」経済財政分析ディスカッション・ペーパー DP/17-４

森信茂樹（2014）「消費増税の課題㊦ 価格の一斉改定、日本特有」日本経済新聞『経済教室』2014 年２月 24 日

渡辺広太・渡辺努（2013）「スキャナーデータを用いた日次物価指数の計測」東京大学金融教育研究センターワーキングペーパー CARF-J-094

Banks, J., Blundell, R., and Lewbel, A. (1997), "Quadratic Engel curves and consumer demand", *Review of Economics and statistics*, 79(4), 527-539.

Danninger, M. S., and Carare, M. A. (2008), "Inflation smoothing and the modest effect of VAT in Germany", International Monetary Fund No. 8-175

Deaton, A., and Muellbauer, J. (1980), "An almost ideal demand system". *The American economic review*, 70(3), 312-326.

Hara, R., Unayama, T., and Weidner, J. (2016), "The wealthy hand to mouth in Japan", *Economics Letters*, 141, 52-54.

Iiboshi, H., Nishiyama, S., and Watanabe, T. (2006), "An estimated dynamic stochastic general equilibrium model of the Japanese economy: A Bayesian analysis", *MPRA Paper* No. 85702

IMF (2018), "Japan: Selected Issues", *Country Repor*t No. 18/334

Kaplan, G., Violante, G. L., and Weidner, J. (2014). "The wealthy hand-to-mouth", *National Bureau of Economic Research*. No. w20073

Poi, B. P. (2012), "Easy demand-system estimation with quaids", *Stata Journal*, 12(3), 433.

Sugo, T., and Ueda, K. (2008), "Estimating a dynamic stochastic general equilibrium model for Japan", *Journal of the Japanese and International Economies*, 22(4), 476-502.

第３章

第１節について

高富康介・中島上智・森知子・大山慎介（2016）「スロー・トレード：世界貿易量の伸び率鈍化」日本銀行調査論文

内閣府（2014）『平成 24 年版　年次経済財政報告』

日本銀行（2016）「グローバルな不確実性の高まりが貿易活動に及ぼす影響」『経済・物価情勢の展望』、2016 年 10 月、ＢＯＸ２

森内岳・柴田英樹・小中進悟（2018）「情報関連財の最近の輸出動向について」マンスリー・トピックス No. 51、内閣府（2018 年１月）

山田浩介・塩田隼士・中道紘一郎（2015）「このところの輸出動向について」マンスリー・トピックス No. 41、内閣府（2015 年３月）

Baker, S., N. Bloom and S. Davis (2016), "Measuring Economic Policy Uncertainty", *Quarterly Journal of Economics*, 131(4), pp.1593-1636.

Boz, E., M. Bussière, and C. Marsilli (2015), "Recent slowdown in global trade: Cyclical or structural?" *The Global Trade Slowdown: A New Normal?* VoxEU.org eBook, pp. 50-70.

CEPR (2015), *The Global Trade Slowdown: A New Normal?* VoxEU.org eBook.

Constantinescu, C., A. Mattoo, and M. Ruta (2015), "The global trade slowdown: Cyclical or structural?" IMF Working Paper, No. 15/6.

IMF (2016a), *World Economic Outlook, April 2016*.

IMF (2016b), "Global trade: What's behind the slowdown?" *World Economic Outlook, October 2016*, Chapter 2.

OECD (2018), *OECD Economic Outlook 2018, Issue 2, November*, OECD Publishing.

第２節について

木村福成・安藤光代（2016）「多国籍企業の生産ネットワーク　新しい形の国際分業の諸相と実態」木村福成・椋寛編著『国際経済学のフロンティア　グローバリゼーションの拡大と対外経済政策』第９章、東京大学出版会

菅沼健司（2016）「グローバル・バリュー・チェーンの長さ指標：製造業とサービス業」『金融研究』第 35 巻第３号、日本銀行金融研究所（2016 年７月）

Kraemer, K. L., G. Linden, and J. Dedrick (2011), "Capturing Value in Global Networks: Apple's iPad and iPhone", Working Paper, University of California, Irvine.

OECD and WTO (2012), "Trade in Value-Added: Concepts, Methodologies and Challenges", *Joint OECD-WTO Note*, March 2012.

OECD (2013a), *Interconnected Economies: Benefiting from Global Value Chains*, OECD Publishing.

OECD (2013b), "OECD Work on Global Value Chains and Trade in Value Added", November 2013.

第３節について

小林俊介・廣野洋太（2018）「最新最速・米中貿易戦争に伴う『品目別』追加関税率の詳細分析」大和総研（2018 年９月 20 日）

堤雅彦（2018）「『米中関税引上げ』の経済的帰結：シミュレーションモデルを用いた影響試算」、一橋大学経済研究所 世代間問題研究機構（CIS）ディスカッション・ペーパー DP No. 672

内閣官房・ＴＰＰ等政府対策本部（2017）「日ＥＵ・ＥＰＡ等の経済効果分析」

森川正之（2015）「業況見通しの不確実性と設備投資」RIETI Discussion Paper Series 15-J-040

森川正之（2018）「企業の先行き見通しの不確実性　－法人企業景気予測調査のパネルデータによる分析－」RIETI Discussion Paper Series 18-J-017

Banerjee, R., J. Kearns, and M. Lombardi (2015), "(Why) Is Investment Weak?", *BIS Quarterly Review*, March 2015.

Bown, Ch. P., E. Jung, and Z. (Lucy) Lu (2018), "Trump and China Formalize Tariffs on $260 Billion of Imports and Look Ahead to Next Phase", September 20, 2018.

IMF (2018), *World Economic Outlook, October 2018*.

OECD (2018), *OECD Economic Outlook 2018, Issue 2, November*, OECD Publishing.